

釧路市教育委員会 令和8年第1回1月定例会会議録

- 1 日時：令和8年1月28日（水）13時30分から14時30分まで
- 2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室
- 3 出席者
岡部義孝教育長
(教育委員)
大山稔彦委員、小出美貴子委員、靱山彩子委員、金安真人委員
(事務局)
澤口学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、司口学校教育部次長、臺野施設計画主幹、小西学校教育課長、三浦教育政策主幹、渡部給食担当主幹、大島学校指導課長、齊藤総括指導主事、鈴木北陽高等学校長、及川北陽高等学校事務長、曾根美術館長、秋葉博物館長、内海生涯学習課長、平野ふれあい主幹、北村阿寒教育事務所長、辰山スポーツ課総括係長
- 4 議事録署名人 小出委員 靱山委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 学びの多様化学校にかかる入学・転入学審査の実施状況について
- (2) 「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」に係る中間報告について
- (3) 「2026くしろ20歳のつどい」開催結果について
- (4) 第98回日本学生氷上競技選手権大会（スピードスケート競技）の開催結果について
- (5) 学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

(1) 学びの多様化学校にかかる入学・転入学審査の実施状況について

(大島学校指導課長)

報告事項1、学びの多様化学校にかかる入学・転入学審査の実施状況について報告する。

はじめに、入学・転入学の申請件数については、今日現在まで22件の申請をいただいているところである。申請いただいた児童生徒については、教育委員会面談後、入学・転入学審査会において審査を進めており、現在17名を承認している。内訳は、現在の学年で小学6年生が3件、中学1年生が6件、中学2年生が8件となっている。残りの5件については、今後審査していく予定となっている。また、今後の申請の相談があった際は、引き続き個別に対応していく予定である。入学予定者の家庭を対象とした入学者説明会については、2月28日(土)を予定しており、現在準備を進めているところである。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

(2) 「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」に係る中間報告について

(内海生涯学習課長)

報告事項2、「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」に係る中間報告について報告する。

本事業は、文部科学省の委託を受け、図書館・学校図書館を中心に、関係機関との連携協働による読書活動の促進により、読書を通じたまちづくりを目指すもので、事業期間は本年3月10日までの単年度事業となっていることから、このほど中間報告という形になるが、事業の進捗状況を報告するものである。事業の実施にあたっては、資料に記載のとおり、協議会を昨年8月に立ち上げ、委員からいただいたご意見などを基に事業を組み立ててきた。具体的な事業の進捗状況のうち、既に実施済の事業については、資料の表のとおりとなっている。

事業種別(1)子どもの読書活動普及のための取組としては、小学生のおすすめ本紹介カードの展示事業と、中学生ビブリオバトル大会を実施している。両事業ともに、年度途中からの取組着手となったにも関わらず、市内の全小・中学校及び義務教育学校にご協力をいただき、多くの児童生徒にとって、新たな本との出会いや読書意欲の向上につながる取組とすることができたほか、イベント当日は多くの方にご来場、ご観覧いただいた。次に(2)読書に関わる人材育成を目的とした取組については、今後の中学校図書館の整備を見据え、学

校支援ボランティアや読書ボランティアの方々を対象とした勉強会を開催し、その後、実際に中学校図書室で行われる整備活動にも参加いただき、図書館司書の指導・助言のもと、実務研修を行っている。

続いて今後の実施予定の事業について、人材育成を目的とした取組として、幼児期から絵本と触れ合う機会の創出に不可欠である、子育て世代を対象とした講座やワークショップを開催するほか、読書によるまちづくり推進を目的とした取組として、SNSを中心に小説の魅力を紹介している、紙上健吾さんを講師とした講演会の開催を予定し、多くの方々に読書の魅力を感じていただけるよう、現在周知PRに努めているところである。参考として資料にこれらの事業に係るPRチラシを添付している。いずれも現時点で定員にはまだ空きがあることから、時間があればぜひご参加いただくとともに、お知り合いなどに情報拡散などご協力いただければと思う。尚、委託事業における今後のスケジュールについては、2月下旬をめどに、第2回の協議会を開催し、今年度の取組に対する感想や意見等をもとに、次年度以降に向けた課題検証を行って、委託業務報告書の提出をもって事業終了となる運びである。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(金安委員)

面白そうな取組ばかりであるが、釧路市LINEを使用し発信しているのか。

(内海生涯学習課長)

すでに1度告知を行っている。再度釧路市LINEや、図書館におけるSNSやホームページを活用し集客していきたい。

(金安委員)

教育委員会に限らず、釧路市LINEをもう少し活用したほうが良いかと思っている。イベントが開催されるごとに周知するなど、釧路市LINEを管理している部署に相談することにより裾野が広がり、今後の宣伝に繋がるかと思われる。

(岡部教育長)

釧路市LINEの所管は総合政策部市民協働推進課になる。内容については伝えさせていただきます。

(靱山委員)

取組が多数あり、対象も様々であることがわかった。周知については私が生活している中でも、学校配布のチラシや、釧路市LINE、SNS関係も含めて、かなり目にしてきている。実施事業の展示「〇〇な人これ読んで！」についてだが、本の世界が広がる面白いテーマだと感じており、ここで2点ほど質問させていただく。1点目は、校内における募集方法や対象を教えてください。2点目は、紹介カード展示後の活用方法について教えてください。

(内海生涯学習課長)

紹介カードの今後の活用予定について、2月14日から児童生徒読書コンクールというイベントが開催される。これは学校の先生たちで構成される学校図書館協会という組織があり、そちらが主催する事業で図書館を会場に読書感想文や生徒たちが作成した本の帯やポップを展示するものであり、期間は2週間程度になる。そちらに今回作成した紹介カードを展示させていただきたいとのことで話しを進めている。また市内の地区図書館計3館で展示が行えないか図書館側と調整しているところである。

次に紹介カードの進め方について、今年度に関しては学校への協力依頼から、実際に展示するまでの時間がタイトなスケジュールになってしまったことから、選定方法については学校側に委ねている。この質問は市内の読書活動推進を図るうえで大事な視点であると我々も思っており、ビブリオ大会等の取組は開催することが目的ではなく、こういった取組に1人でも多くの児童生徒が読書活動に触れてもらうということが大事だと思っている。実際にビブリオ大会を開催した際に、代表生徒複数名に選考方法を聞いたところ、校内において予選会を開催の上、代表者を選考したという学校もあれば、中には単独で指名されたという学校もあった。よって来年度は学校側に早い段階で事業スケジュールを共有の上、例えば授業の中でそういった取組を進めてもらえないか、実施するにあたり進め方が難しいようであれば、図書館の人が助言に伺う等、そういった細部を詰めていくような形で、より効果的な取組とならないかを意識し、今後取り組んでまいりたいと思う。

(靱山委員)

私も中央図書館だけではなく、各地区の図書館や学校図書室での展示により、さらに広がるものであると思っていた。

(大山委員)

大変すばらしい取組である。きっと来年度はモデル事業ではなくなってしまうかと思うが、ぜひ今回の成果を来年度に活かしてもらいたいと思っている。2月の講演会には参加させていただくので、よろしく願いしたい。

(小出委員)

これまでも読書については様々な取組を行っていただいたが、このようにまとまった一連の事業として企画し、市民へ周知することは、とても良い機会になったのではないかと考えている。特にビブリオバトル大会にて中学生が紹介した本を、市内の書店で紹介するコーナーを設けるとするのが新しい取組であり、これが学校、図書館での読書活動推進だけではなく、市民に向けてという意味での取組であり、第一歩としてとても良かったと思っている。職員指導として中学校の図書室整備のため訪問した中で、中学校の校長、教頭から話しを聞いた際に、中学校へ図書館職員が訪れたときに、担当の先生だけではなく他の先生も協力して図書整備に携わってくれた学校は、学校全体で先生たちの図書室への意識が変わったという話も聞いたところである。図書室についての意識はとても大事であり、こちらから働きかけていくことにより成果が出るということを実感したため、今年度のみで終わるのではなく、次年度もこういった取組を続けていければ良いと思った。

(内海生涯学習課長)

小出委員には、協議会委員としても、主体的に多くの事業に関わっていただき、感謝している。ご説明のとおり、来年度は協議会が無くなるのだが、今年実施したことが1つの足がかりとなり、何点か取組を続けられそうだという手応えを感じている。また先ほど靄山委員から質問があったように、手法をブラッシュアップしていけば、効果が見えてくると思われる。この協議会を進めていく中で1番大きいと感じたのは、多くの方々に関わっていただき、協議会が解散しても、一緒に取組を続けていくことができるのではないかと思っている。今お話があったように学校との繋がりなど、従前までは生涯学習部として積極的に立ち入ることができなかったところに、今回は組み込ませていただき、進め方によっては、今後こういったところで事業が進められるという手応えも感じているところである。今年度行った事業の分析を行い、来年度もしっかりと継続して取り組んでまいりたいと思っている。

【公開案件】 報告事項

(3) 「2026くしろ20歳のつどい」開催結果について

(内海生涯学習課長)

報告事項3、「2026くしろ20歳のつどい」開催結果について報告する。

本年の20歳のつどいは、今年度新たに20歳となる方々を対象に、去る1月11日、コーチャンフォー釧路文化ホールにて開催した。当日は定刻通り開式し、滞りなく終了することができた。教育委員の皆様には、大変お忙しい中ご出席いただき、お礼を申し上げる。

今回の20歳のつどいの対象者は、1,364人で、当日の参加人数は、964人となり、対象者に対する参加率は70.7パーセントとなった。なお、昨年度実施した式典会場集約化に伴い、今年度においても阿寒・音別地区在住者に向けて会場までの送迎に関する案内を行ったところ、当初は、阿寒地区在住者1名から申込みがあったが、式典当日に知人による送迎が可能となったと連絡を受けたため、実際の送迎は実施しなかった。

式典内容については、資料をご覧ください。公式インスタグラムで式典当日の参加者の写真を公開したほか、会場ではUIJターン就職ブースの設置やキッチンカーの出店に加え、また、今回は初の試みとして、20歳の代表者が自ら企画・デザインしたバルーンアーチを写真撮影スポットとして設置し、多くの参加者から好評をいただいた。記念品については、釧路自動車協会ほか7団体から寄贈いただいた、「くしろ木づなプロジェクト」の一環として製作された木製のキートレイをお配りした。また、式典部門終了後は昨年度に引き続き、記念抽選会を開催した。市内企業に協賛を募った結果、昨年度を上回る14社から計110点の景品をいただき、参加者からは景品を呼び上げるたびに大きな歓声があがるなど、大変盛り上がる企画となった。なお、式典当日は、次年度の式典対象者である19歳の代表者の方々にも式典の様子を見ていただき、次年度以降も引き続き、参加者代表の意見を反映しながら、式典内容を検討してまいりたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(大山委員)

大変素晴らしい式典であった。会場に車椅子で参加の方がおられたが、対応が素晴らしく、その方も大変喜んでいた。来年度以降もそういったときには対応をよろしくお願いしたい。

(小出委員)

今年も各企業協力のもと、抽選会が実施され、多くの景品を用意していただき、本当に感謝しかない。キャリア教育への協力についても同様であるが、釧路の子どもたちは地域に大切にされていることがわかる20歳のつどいであったと思う。

(岡部教育長)

こういったイベントについては、記憶が薄らぐ前に参加者で議論を行い、次年度に向けて検討を加えるというのが必要なプロセスだと思うので、行っていただければと思う。

【公開案件】報告事項

(4) 第98回日本学生氷上競技選手権大会(スピードスケート競技)の開催結果について

(辰山スポーツ課総括係長)

報告事項4、第98回日本学生氷上競技選手権大会(スピードスケート競技)の開催結果について報告する。

釧路市では令和元年度の第92回大会以来、6年ぶり7回目となった本大会は、1月4日(日)にコーチャンフォー釧路文化ホールにおいて開会式を執り行い、5日(月)から7日(水)の3日間、釧路市柳町スピードスケート場において競技が開催された。大会期間中の観客数は3日間合計で約770人となっており、特にリレーやパシュートといった団体競技の人气が高く、観客の注目を集めていた。

出場校および選手については、全国から16大学、173人の選手が大学日本一をかけて出場した。釧路市出身で高崎健康福祉大学2年生の藤中秀斗選手も出場し、男子500mでは7位入賞、男子1,000mでは6位入賞と、今回出場した2種目、いずれも入賞を果たす活躍をされた。各競技種目の順位に応じて与えられる得点を学校ごとに競う、学校対抗戦の結果としては、女子優勝は高崎健康福祉大学、男子優勝は専修大学となっている。

本大会の開催に当たり、準備・運営に携わっていただいた全ての関係者の皆様に改めて感謝するとともに、大会開催を通じて、釧路市の地域経済の活性化及びスピードスケート競技の普及振興に寄与できたものと考えている。今後ともスポーツ振興及びスポーツを通じた地域活性化が図られるよう、各種大会の誘致に努めてまいりたい。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

(5) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項5、学校の現状について報告する。

市内の小・中・義務教育学校は1月14日から冬休み明けのいわゆる3学期が始まっている。ちなみに今年度の修了式は、3月24日で終わりとなっている。

1月8日に「第69回釧路市学校経営研究協議会」が開催された。これは、冬休み中の、まだ正月気分が抜けきらないこの時期に市内の小・中・義務教育学校の全校長が一堂に会して、朝から夕方まで1日研修を行うものである。今回も3つの分科会に分かれて6人の校長が提言をされ、それに基づいて研究協議が行われた。また、研修会の最後には北海道教育庁学校教育監の川端香代子氏を講師に招いての講演を行った。川端氏は教育行政のスタートが釧路教育局指導主事であったため、当時私も市教委の指導主事として一緒に学校訪問をしたこともあり、大変懐かしく思うとともに講演内容も時宜を得た内容で大変有意義なものであったと捉えている。講演会からは全教頭先生も参加し、特に次期学習指導要領が告示され全面実施される頃には、おそらく学校経営の中心となっていると思われる教頭先生方であるので、こういう点でも大変興味深い話だったと感じている。またその日の夜には久々に100人規模で、校長・教頭に加えて市教委と教育局の幹部職員が一堂に会して新春教育関係者懇親会が開かれた。教育委員の皆様にも参加いただき、ありがたく思う。

3学期は学年のまとめの時期であると同時に、実質的には登校日数が2か月しかなく、どの学年も当該学年の学習内容を確実に身に付けさせなければならない大変大事な時期であると捉えている。また特に、高校入試に取り組む中学校3年生は1月末までにどの教科も教科書を終わらせるように道教委から指導が入っていることから、この時期に例年インフルエンザが流行して学級閉鎖や学年閉鎖が起きたり、あるいは雪等の荒天による臨時休校も生じたりすることから、余裕をもった進捗管理を行うよう各学校長には周知徹底の確認をしたところである。

すでに報道にもあったとおり、札幌市の高等学校で過去のいじめ案件が重大事態に認定される事案が年内に起こった。それを受けて、道教委では1月の初旬にいじめ防止対策推進法が制定された平成25年に遡ってのいじめの点検に係る通知があり、全校調査を行った。釧路市ではすべての学校で該当事案がないとの調査結果を報告したが、報道によると全道でも該当事案はなかったと道教委が数日前に公表していた。しかし、一昨日の報道では、同内容の点検を政令指定都市の札幌でも同時に行ったが、札幌市では約20件の見逃しがあるかもしれないとの報道があったため、当市においても、いじめの問題には今後より一層真摯に向き合って対処してまいりたいと考えている。

このあと、教職員の人事異動作業が本格化する時期になる。スムーズな人事作業が行われるよう、各学校の校長先生方には節度とルールを守って担当者とやり取りするよう、協力を求めたところである。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(大山委員)

例年、釧路市において高校入試に関わる大きな問題は起きていないが、全国的には発生していることから、校長先生方に気を抜かないようお願いしたい。